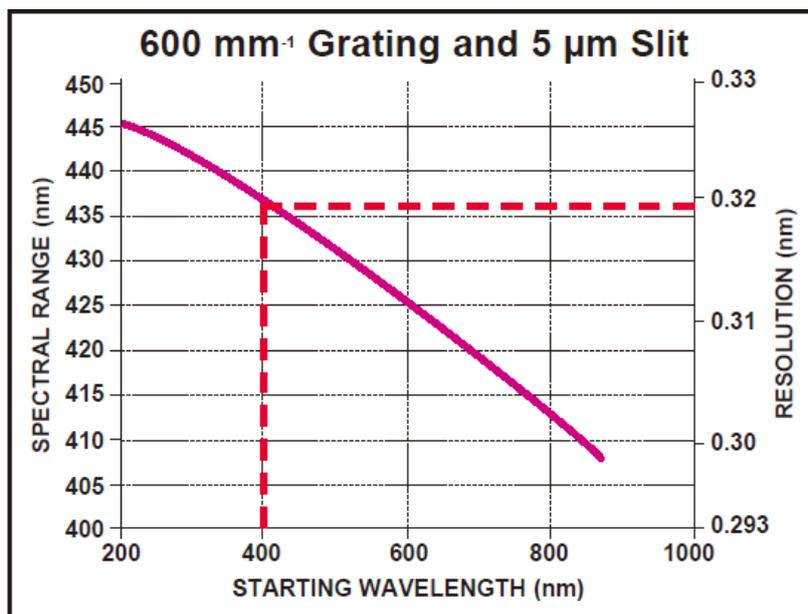


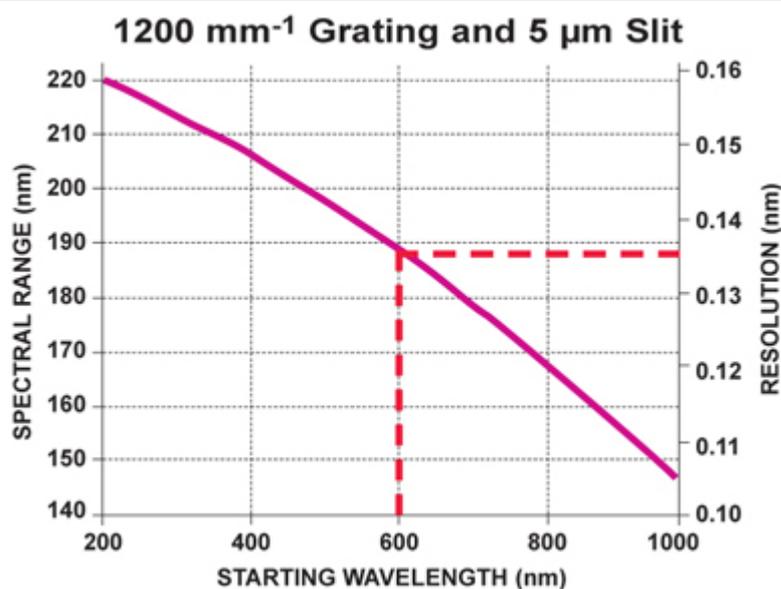
測定可能波長範囲および波長分解能(2)

(Maya2000Pro)

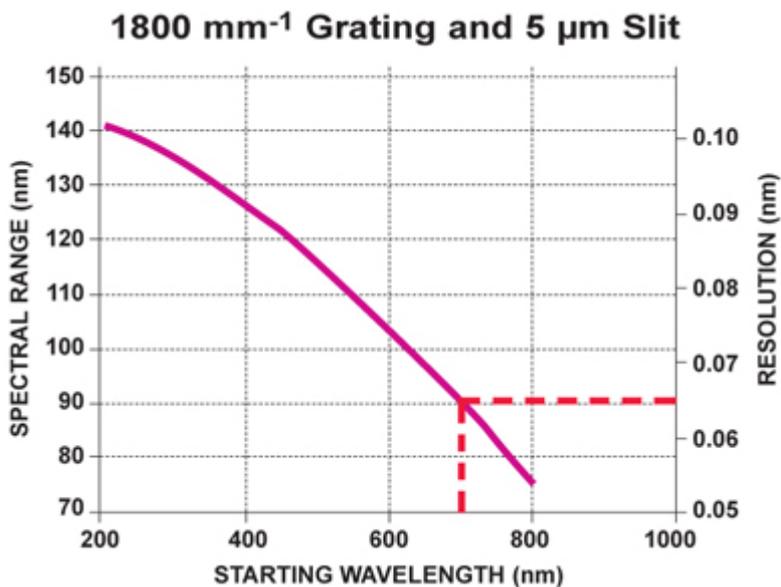
以下のグラフは、5 μm 入射スリットと各種グレーティングの組み合わせによる Maya2000Pro 分光器の測定可能波長範囲と波長分解能を示しています。



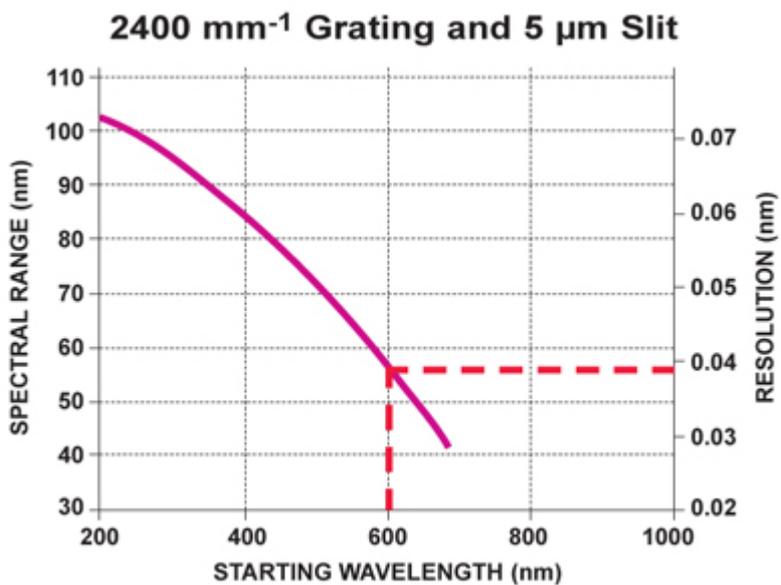
例：設定開始波長が 400 nm のとき、波長範囲は～ 437 nm (400 – 837 nm) となり、波長分解能は 0.32 nm となります。
刻線数 600Lines/mm のグレーティング；1、2、3、4、14 が対象となります。



例：設定開始波長が 600 nm のとき、波長範囲は～ 188 nm (600 – 788 nm) となり、波長分解能は 0.137 nm となります。
 刻線数 1200 Lines/mm のグレーティング；5、6、9 が対象となります。



例：設定開始波長が 700 nm のとき、波長範囲は～ 90 nm (700 – 790 nm) となり、波長分解能は 0.065 nm となります。
 刻線数 1800 Lines/mm のグレーティング；10、11 が対象となります。



例：設定開始波長が 600 nm のとき、波長範囲は～ 56 nm (600 – 656 nm) となり、波長分解能は 0.039 nm となります。
 刻線数 2400 Lines/mm のグレーティング；7、12 が対象となります。